



# 和敬会だより

第143号

発行所  
医療法人社団 和敬会  
谷野呉山病院  
富山市北代5200  
<https://www.wakeikai.com>

発行人  
理事長 谷野 亮一郎



発行日 令和5年7月10日

北代地区の獅子舞



4年ぶりに地元北代地区の獅子舞が披露されました。

## 医療法人和敬会

### 基本理念

「希望に満ちた人生の回復を目指して 私たちはあなたと共にある」

### 基本方針

- ・専門職がチームで関わり、あなたの価値観を大切に医療を提供します。
  - ・常に研鑽に努め、安全で質の高い医療を提供します。
  - ・広く情報公開に努め、あなたと共に考える医療を提供します。
  - ・精神科救急体制の充実や社会資源との連携を図り、地域に根ざした医療を提供します。
  - ・環境に配慮し、地球にやさしい医療を提供します。
  - ・精神疾患に対する偏見の払拭、権利擁護に努め、あなたが自らの強みを発揮できる社会づくりを推進します。
  - ・人材育成に努め、当院に勤務する職員が自らの強みを発揮できる職場づくりを推進します。
- 私たちは基本理念を胸に抱き、健全な病院経営の下で以上の基本方針を実践します。

谷野呉山病院  
ホームページ



職員募集専用



成功の反対は……

理事長・院長 谷野 亮一郎



当法人は平成三十年度より毎年、年度の目標を設定しております。

平成三十年度…「学び合い」の環境づくり

令和元年度…他部署・他機関と顔の見える関係づくり

令和二年度…「新しい生活様式」をふまえた「新

しいサービス提供体制」づくり

令和三年度…地域と支援者が共に満足できる持続可能なサービス提供体制づくり

令和四年度…これから十年 新たな時代の和敬会づくり

と、これまで「〇〇づくり」しばかりで目標を設定してきましたが、令和五年度はどうしても「〇〇づくり」が思いつかず(笑)

「退院支援・地域生活支援、行動制限最小化、虐待防止に尽力する一年にしよう」といたしました。

今年度、当法人は、新しい先生方をお迎えし急性期治療病棟を中心に医師の配置を増やし、身体合併症管理を含め、より質の高い医療の提供を目指します。またひとつの病棟を「地域移行機能強化病棟」と位置づけ、特に一年以上の長期入院患者様の退院までの支援・退院後の生活支援に一層の力を入れて取り組みます。そして、改めて隔離・拘束といった行動制限の最小化、虐待防止に取り組みます。さらに追加で、当法人でD-PATチームが結成できたらしいな、なんてことも考えております。

ところで、成功の反対は？ 失敗ではなく「挑戦しないこと」と発明王トーマス・エジソンが言ったとか言わなかったとか。あるいは、ラッパのAwichが『RASEN in OKINAWA』の中で「失敗は成功のもと 本当に成功の反対にあるのは何にもやらないこと」と韻を踏んだとか踏まなかったとか(笑)  
あー、沖縄行きたいー！

第四十一回院内学会「将来の和敬会を見据えた日々の実践」を開催しました。



令和五年二月二十三日に第四十一回院内学会を開催しました。今回はZOOMによる職員のリモート参加と同時にメイン会場への入場も受け付けました。会場での質疑も活発で賑やかな学会となりました。参加者から「久々の学会の雰囲気」が新鮮でした」という声も頂き、準備の疲れが吹き飛ぶような思いでした。コロナ禍のなか開催にご協力頂いた職員の皆様や見事な論文を発表頂いた演者の方々に篤く御礼申し上げます。

実行委員 加藤 正志

菊地 雅子 (ストレスケア病棟)	長期入院患者の退院への関わりを通して ーコロナ禍の行動制限中での患者及び家族への退院支援ー
館盛 千花 (クライシスケア病棟)	認知症患者の拒絶に対する効果的な介入を試みて
中山 哲 (3A病棟)	長期入院患者の整理整頓について ースタッフ介入に依る私物整理の改善ー
松郷 京子 (谷野医院)	他部門との連携から見た 谷野医院薬局の役割と今後の展望
築迫まりあ (メンタルケア病棟)	メンタルケア病棟の統計に基づいた転倒転落対策
麻柄 宣子 (33病棟)	家族看護エンパワーメントに基づく退院支援の取り組み
○浜守 大樹 (コ・メディカル課)	1年以上の長期入院患者の退院支援を考える
野村うちめ (人事課)	過去5年間の職員採用活動における成果と課題
○堀口 明美 (コ・メディカル課)	外来作業療法の役割 ー外来作業療法通院者専用スペースでの実施にて改めて見えて来た専門性ー
川田 早苗 (デイケアのぞみ)	デイケア中断者の調査を通し、 今後のプログラム運営を考える
一林 真理 (医局)	発達性トラウマ障害の1例

(○印は優秀論文賞)



## 今年度、新しく医師3名が入職しました

**大田垣 昂先生**



本年四月より谷野呉山病院に入職させていただきました。出身は東京都練馬区で、高知大学卒業後、石川県七尾市の病院で二年間の初期研修を行った後、昨年度までは群馬県の精神科単科病院で働いていました。旅行や地理が趣味で、いろいろな場所に住んでみたいの思いもあり今まで転々としていましたが、今回縁あって谷野呉山病院に入職させて頂きました。富山は食べ物もおいしく、街も機能的でとても住みやすいので、今後は富山県に腰を据えたいと思っております。

今年で医師としては五年目、精神科医としては三年目になります。まだまだ経験が浅いですが、研鑽を積ませていただき、患者さまのために貢献できるよう頑張ります。スタッフの皆様をサポートがとても手厚いので、今のところはなんとか診療をできております。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

**高山 英也先生**



令和五年四月一日より、谷野呉山病院で皆様と共に働かせていただくこととなりました高山英也と申します。埼玉県出身で、令和二年に金沢大学を卒業し、二年間の初期臨床研修を修了後、精神科医として勤務しております。

谷野呉山病院の職員の方々は一人心ひとりが活気に満ち、行動力に溢れており、日々多くを学ばせていただいております。貴重な臨床経験を積ませていただきながら、チーム医療として、患者さま一人ひとりの心の健康をサポートしていきたいと思っております。

新たな環境でのスタートには緊張感も伴いますが、一生懸命努力し、日々の研鑽を重ねて成長していきたいと思っております。患者さまとの信頼関係を築きながら、患者さまが安心して治療を受けられる環境づくりに努めてまいります。患者さまのために尽力し、地域の健康増進に貢献できるよう努めてまいります。皆様には何卒ご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

**金森 岳広先生**



私、金森岳広と申します。今年五月一日に内科医として谷野呉山病院に着任しました。専門領域は代謝・内分泌疾患(糖尿病、肥満症やバセドウ病などを思い浮かべてください)ですが、内科全般の診療に携わっております。出身は富山県高岡市。平成二十二年に金沢大学を卒業し、その後は主に石川県で働いていました。令和三年に大学医局を離れて地元に戻ることにし、腰を据えて働ける職場を探していたところ当院に採用いただきました。

さて、これまで診てきた患者さんとまた異なる疾患スペクトラムをもつ患者さんを診るため、新しく経験すること、考えることは多いです。例えば、長期入院中の精神疾患患者さんは栄養障害、フレイル、誤嚥などを高率に患っております。これらの患者さん一人ひとりの生活の質向上に、内科医として培ってきた知識や経験を活かせるのではと考えております。また、何かご相談やご質問がありましたら、お気軽にお声がけください。今後ともよろしくお願ひします。

## 第十二回やすらぎホール作品展示会

令和五年三月四日から九日にかけて第十二回やすらぎホール作品展示会を開催しました。前年同様のコロナ禍で病棟での感染発生もあり開催を一度延期したつえ、病棟の出演を中止しデイケアや外来の方のみと、昨年以上に規模縮小せざるを得ませんでした。しかし作品数は少なくとも素敵な作品が多く、盛況のうち無事に開催できました。皆さまのご協力に感謝申し上げます。来年度は病棟の方も参加できる体制を整えていきますので、皆さんと一緒に開催できる日を心待ちにしております。

実行委員 篠島 恭輔



法人の動き

月	日	事項
2	23	第四十一回院内学会
3	4~9	やすらぎホール作品展示会
3	8	職員総会
3	24	健康課実地審査・実地指導
3	27	法人理事会
3	29	防火訓練
4	3	臨時職員総会
4	5	富山県議会議員選挙不在者投票

資格取得者

看護師免許

渡辺明日香 (クライシスケア病棟)

中田 享 (メンタルケア病棟)

准看護師免許

吉田 芽愛 (メンタルケア病棟)

友井正美先生を偲んで

ジャズピアノニストの友井昌美先生が令和五年三月三日、九十一歳で逝去されました。

友井先生には、センターが開設された平成十三年から続いている、「地域交流事業」ふれあいフェスタカラオケ大会」の審査委員長を毎回つとめていただいていた。

「ふれあいフェスタ カラオケ大会」には、デイケア、生活支援センター、生活訓練センター、ワークハウス連帯等の利用者と近隣地域のカラオケ愛好家の方々が集います。鍋田恭子アナウンサーの軽妙な進行で、参加者の方々の緊張もほぐれ、和気あいあいとした笑いのたえないカラオケ大会です。

友井先生は一人ひとりの参加者に、「難しい歌のリズムを上手にとっている」「発声方法を変えた方が、より聞いている人に伝わる」など専門家としての講評をいただき、必ず「何よりも大勢の前で堂々と歌ったり、話したりできることがすばらしい」とほめてくださいました。



ここ三年はコロナ禍の影響で、カラオケ大会を開催することができず、今年こそは久しぶりにお会いできるかもと楽しみにしていた矢先の訃報でした。友井昌美先生の颯爽としたお姿や、やさしい笑顔を思い出しながら、心より感謝と哀悼の意を表したいと思えます。

脳と心の総合健康センター 宮部

新職員を迎えて 研修開始

今年度も四月からたくさんの新職員を迎えることができました。さっそく当院の電子カルテの使い方について先輩看護師が研修を行いました。

今後、谷野理事長からの和敬会の取り組みについての講演や、接遇や医療安全をはじめとする職員としての基礎について受講します。

多職種にわたる講師から幅広い内容について学び、今後の和敬会を担う人材として活躍することを期待します。



紙面に掲載されている患者さまの写真につきましては、掲載に際して、ご本人または保護者のご了承を頂いております。

編集後記

今号から和敬会だよりを担当することになりました。前身の「院内新聞」から数えると四十年以上続く歴史を今後も紡ぎ続けるべく、微力を尽くしたいと存じます。(志)